料理の妙味

北大路魯山人

なんとしても水切りに近いものをよしとする。蔬菜はなおさらの ことであると知らねばならぬ。

まずあるまい。 土を離れて時の経つにつれ、 これだけ知っても、 味がよくなるなどという蔬菜は、 美味い料理はできるはずであ

る。

も、 前の味をもっている。これを生かすということである。 類に劣らぬ数であろう。この何百種類のものは、ひとつひとつに 千と多種類に上るであろう。山から、畑から採る蔬菜の種類も魚 っているようであるが、それでも一年を通じて数えたら、 次に心得べきことは、すべてのものはみな各自独特の味、 これを損じてはいけない。われわれが日常食う魚類は大体決 少なくと 何百何

あって、これらの味付けでなにかを美味く食うものと考えてはま ずれもよき味の持ち主ではあるが、これはどこまでも補助材料で ならぬ。 を失わないよう心づかいをするのが料理人の根本精神であらねば 特有の持ち味に着眼することが肝心なのである。そうして、これ ちがいである。調味料は以上列記したものを数えてみても、 うな生やさしい味ではないからである。塩、醤油、酒、 異なった特有の持ち味を身につけて生まれているのである。この なぜと言って、その特有の持ち味は、人為人工のつくり得るよ 味の素、かつおぶし、昆布、煮干しなどは、味付料としてい 味醂、砂

にはならないかぎられた少数である。ところが山海の幾千、

十種

料理の妙味 6 る天然の持ち味を軽視して、濫りに人為を施し、 は 種の食物は、そのひとつひとつが特有の味を持ち、 つくって得たりとするがごときは、けだし、自然の味を冒涜する 人為人工の企て及ばぬ特色を有しているのである。 味のカクテルを しかも、それ この特色あ

補 助味も、 塩だけがよいものは塩だけ、 酒だけがよいものは酒

ものであるとせねばならぬ。

だけ、 体して補助する場合もある。しかし、 ださねばならぬ。 だけがよいものは昆布だけというふうに、 かつおぶしだけがよいとするものはかつおぶしだけ、 もちろん、甲と乙と、あるいは甲と乙と丙を合 要は補助味を賞味するので 調味を知って考えをく 昆布

はなく、

本体のさかな、

鳥、

蔬菜を、

その持ち味で賞味させるの

ると、 ある。 断の注意力により、いつとはなしに肯かれるものである。 なくてはならないから、一朝一夕というわけにはいかないが、不 が目的であるのだから、それに適合する補助味でなくてはならな で軽快に働きかけて、 いのである。 いのである。この呼吸を飲み込むには、相当な経験というものが がれて来るようでなくては、料理は面倒が先に立って、 ものさえ分って来ると、おのずから、趣味は出来て来るもので 趣味が出来て来ると、面白くなって来る。 否応なしに手も足も軽く動くものである。 頓智頓才も続発し、独創の料理が自然と生 頭のエンジンま 面白くなって来 進み難 これが

まれて来るものである。合理合法に拠る独創には魅力が伴うもの

8

である。 魅力あるものに非ざれば、

ていることである。

躍動の作品、

それは魅力と握手し合体した作

作品の躍動しないことも決っ

品である。

も言えないのである。

料理は、

真の料理の極意を識ってのことであるとは、なんとして

昭和十三年)

無条件に是として真似んとするお体裁

料

理屋の料理の巧緻を、

料理の妙味

底本:「魯山人味道」中公文庫、 中央公論社

1995 1980(昭和55)年4月10日初版発行 (平成7)年6月18日改版発行

入力:門田裕志 2008(平成20)年5月15日改版14刷発行

校正:仙酔ゑびす

青空文庫作成ファイル: 2013年5月14日作成

このファイルは、インターネットの図書館、 青空文庫(http://ww

10

料理の妙味

w.aozora.gr.jp/)で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

料理の妙味 北大路魯山人

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL http://www.aozora.gr.jp/

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL http://aozora.xisang.top/

BiliBili https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks 青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/ ※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。 http://tokimi.sylphid.jp/